

感染状況・医療提供体制の分析 (3月16日時点)

【3月17日モニタリング会議】

区分	モニタリング項目 ※①～⑤は7日間移動平均で算出	前回の数値 (3月9日公表時点)	現在の数値 (3月16日公表時点)	前回との比較	これまでの最大値	項目ごとの分析	
感染状況	①新規陽性者数※1 (うち65歳以上)	9,379.0人 (658.3人)	8,093.0人 (439.3人)		18,024.7人 (2022/2/8)	総括コメント 感染の再拡大の危険性が高いと思われる	
	潜在・市中感染						
	②#7119 (東京消防庁救急相談センター) ※2における発熱等相談件数	82.6件	84.6件		209.7件 (2021/8/16)	新規陽性者数は緩やかな減少傾向にあるものの、年度末前後のイベントによる人の移動、接触機会の増加やオミクロン株BA.2系統の影響を受ければ、感染が再拡大する恐れがある。10歳未満の新規陽性者数が高い値で推移しており、警戒が必要である。 個別のコメントは別紙参照	
	③新規陽性者における接触歴等不明者※1	数 5,614.6人	4,725.0人		11,659.9人 (2022/2/8)		
	増加比※3	88.3%	84.2%		1,101.5% (2022/1/9)		
医療提供体制	検査体制					総括コメント 通常の医療が大きく制限されている	
	④検査の陽性率 (PCR・抗原) (検査人数)	32.4% (16,331人)	31.4% (15,034人)		41.2% (2022/2/12)		
	受入体制	⑤救急医療の東京ルール※4の適用件数	202.4件	154.1件		264.1件 (2022/2/19)	東京ルールの適用件数は、減少傾向にあるものの、未だ高い値で推移している。入院患者数及び重症患者数に占める高齢者の割合が、高い値で推移しており、高齢者への対応等で医療従事者への負担が長期化している。 個別のコメントは別紙参照
		⑥入院患者数 (病床数)	3,374人 (6,815床)	2,817人 (6,946床)		4,351人 (2021/9/4)	
⑦重症患者数 人工呼吸器管理 (ECMO含む) が必要な患者 (病床数)		64人 (471床)	54人 (471床)		297人 (2021/8/28)		

※1 都外居住者が自己採取し郵送した検体による新規陽性者分を除く。

※2 「#7119」…急病やけがの際に、緊急受診の必要性や診察可能な医療機関をアドバイスする電話相談窓口

※3 新規陽性者における接触歴等不明者の増加比は、絶対値で評価

※4 「救急医療の東京ルール」…救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

【参考】VRSデータによる都民年代別ワクチン接種状況 (3月15日現在)
(※①②③は接種回数)

都内全人口

①79.0% ②78.3% ③32.6%

12歳以上

①87.0% ②86.3% ③-

高齢者(65歳以上)

①92.8% ②92.5% ③72.6%

総括コメントについて

1 感染状況

<判定の要素>

- モニタリング項目に加え、地域別の状況やワクチン接種の状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、感染状況を総合的に分析

<総括コメント（4段階）>

-  大規模な感染拡大が継続している／感染の再拡大の危険性が高いと思われる
-  感染が拡大している／感染状況は拡大傾向にないが、警戒が必要である
-  感染拡大の兆候がある（と思われる）／感染状況は改善傾向にあるが、注意が必要である
-  感染者数が一定程度に収まっている（と思われる）

2 医療提供体制

<判定の要素>

- モニタリング項目に加え、療養者の年齢構成、重症度、病床の状況やワクチンの接種状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、医療提供体制を総合的に分析

<総括コメント（4段階）>

-  医療体制がひっ迫している／通常の医療が大きく制限されている（と思われる）
-  通常の医療を制限し、体制強化が必要な状況である／通常の医療が一部制限されている状況である
-  体制強化の準備が必要な状況である／通常の医療との両立が可能な状況である
-  平時の体制で対応可能であると思われる／通常の医療との両立が安定的に可能な状況である

(注) 通常の医療：新型コロナウイルス感染症以外に対する医療（がん、循環器疾患等の医療）